

## 愛知県スタートアップ\*活用まちづくり支援事業への参加検討

### 「本市が目指すべき方向性」～アートヴィレッジの観光中核拠点化～

#### 1. 令和 8 年度スタートアップ活用まちづくり支援事業の概要

- ・愛知県の支援を受け、市町村の地域課題をスタートアップ企業の革新的な技術や斬新な発想で解決を目指す事業です。
- ・最大 1,000 万円の実証費用が県からスタートアップへ直接支払われるため、本市の自己負担額や予算計上は不要（財政負担ゼロ）で大規模な実証実験が可能です。

#### 2. アートヴィレッジの現状と直面している課題

##### 【収益基盤の脆弱化と既存コンテンツの硬直化】

令和 5 年度の来館者は約 10 万人ですが、有料の展示室観覧者は落ち込んでおり（前年同期比 1,008 人減）、無料エリアへの来訪が消費に結びついていません。また、開業から 20 年が経過し、従来の「見るだけ」の展示ではリピーター獲得が困難な状況とされます。

##### 【伝統産業の危機】

「尾張七宝」の組合員数が減少し、職人の高齢化や後継者不足が深刻化しています。

##### 【民間参入（Park-PFI 等）の壁】

民間活力を導入した運営を目指していますが、「現状の集客力では採算面で投資は難しい。」というのが民間事業者の見解です。厳しい財政状況のなか、多額の公費（ハード整備）に頼らず既存施設を活用し、民間が参入できる「稼げるフィールド」を構築することが最大の急務となっています。

#### 3. 本事業を通じて目指す姿（最終目標）

##### 【持続可能な観光拠点の確立】

例えば、AR/VR 等の新しい体験型展示やデジタルマーケティングを導入し、「何度でも訪れたい施設」へアップデートします。これにより集客基盤を整え、次段階である民間活力導入（Park-PFI 等）を牽引します。

##### 【面的な観光展開と経済循環の創出】

アートヴィレッジを中核拠点（ハブ）とし、甚目寺観音や七宝みそなど市内の観光資源へ誘導する周遊ルートを構築し、市内全域にお金が循環する仕組みを作ります。

##### 【シビックプライドの醸成】

スタートアップの力で伝統産業に新たな価値をもたらすことで市民の郷土愛を育み、「また訪れたい」と感じる関係人口（ファン）の創出を実現します。

#### 4. 今後の主要スケジュール（予定）

- 4 月上中旬：応募市町村向け事業説明会、個別面談の実施
- 6 月中下旬：ガバメントピッチの開催
- 9 月下旬：支援対象実証実験の決定
- 9 月下旬～2 月下旬：実証実験の実施
- 3 月中下旬：成果報告会の開催

\*スタートアップとは、革新的なアイデアや技術を基盤に、新しいビジネスモデルを創出し、短期間で急成長を目指す企業を指します。